

## 平成22年9月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成22年7月29日

上場会社名 株式会社セガトイズ 上場取引所 J Q  
 コード番号 7842 URL http://www.segatoys.co.jp/  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 鈴木 義治  
 問合せ先責任者 (役職名) 代表取締役副社長 (氏名) 菅野 暁 (TEL) 03 (5774) 3604  
 経営統括本部長  
 四半期報告書提出予定日 平成22年8月6日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成22年9月期第1四半期の連結業績（平成22年4月1日～平成22年6月30日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年9月期第1四半期	3,251	7.5	△0	—	△8	—	△21	—
22年3月期第1四半期	3,025	16.1	△335	—	△345	—	△381	—

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	
	円	銭	円	銭
22年9月期第1四半期	△1	02	—	—
22年3月期第1四半期	△17	73	—	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	1株当たり純資産	
	百万円		百万円		%	円	銭
22年9月期第1四半期	6,573		2,410		24.5	74	87
22年3月期	6,327		2,133		26.1	76	62

(参考) 自己資本 22年9月期第1四半期 1,612百万円 22年3月期 1,650百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金									
	第1四半期末		第2四半期末		第3四半期末		期末		合計	
	円	銭	円	銭	円	銭	円	銭	円	銭
22年3月期	—	—	0	00	—	—	0	00	0	00
22年9月期	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
22年9月期(予想)	—	—	—	—	—	—	0	00	0	00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無：無

### 3. 平成22年9月期の連結業績予想（平成22年4月1日～平成22年9月30日）

(%表示は、対前年第2四半期（累計）増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	6,100	△30.3	△50	—	△60	—	△70	—	△3	25

(注) 当四半期における業績予想の修正有無：無

当連結会計年度は決算期の変更により、平成22年4月1日から平成22年9月30日までの6ヵ月間となります。このため、通期の対前期増減率については記載しておりません。

4. その他（詳細は、【添付資料】P. 4「その他」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動：無

（注）当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用：有

（注）簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更：有

② ①以外の変更：有

（注）「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	22年9月期第1四半期	21,536,100株	22年3月期	21,536,100株
② 期末自己株式数	22年9月期第1四半期	一株	22年3月期	一株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	22年9月期第1四半期	21,536,100株	22年3月期第1四半期	21,536,100株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続きの対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続きを実施中であります。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係わる本資料の発表日現在における仮定を前提としております。実際の業績等は、経済情勢、市場動向など様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	4
2. その他の情報 .....	4
(1) 重要な子会社の異動の概要 .....	4
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要 .....	4
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要 .....	5
(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要 .....	5
3. 四半期連結財務諸表 .....	6
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	6
(2) 四半期連結損益計算書 .....	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	8
(4) 継続企業の前提に関する注記 .....	9
(5) セグメント情報 .....	9
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	9

## 1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結会計期間におけるわが国経済は、ユーロ圏内での新たな金融不安の懸念、為替の円高基調、国内における雇用環境の停滞や個人消費の低迷、生活防衛意識の高まり、デフレ状況の継続など、依然として厳しい状況が続いております。

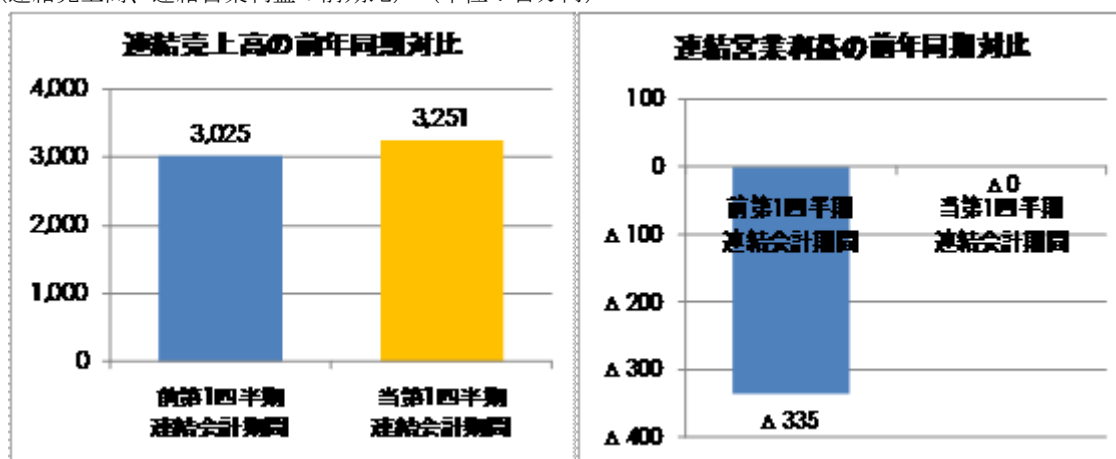
このような状況の中、当社グループは、「新価値創造 for the next smile」を社是とし、従来の玩具業界の枠にとらわれず、これまでになかった新しい遊びを提案することを目指しております。また、中期経営ビジョンである「セガサミーグループ内のシナジーを最大限発揮し、全く新しいエンターテインメントを日本から世界に向けて発信し、世界中の人々に最高の笑顔と感動をお届けする」ために、中期事業戦略として「製品のプラットフォーム化戦略」と「キャラクターコンテンツのクロスメディア化戦略」に取り組み、またこれらの中期経営計画を実現するための「7つの構造改革」に着手しております。

こうした中、当第1四半期連結会計期間においては、事業効率を見直し収益改善を図るために事業及び製品の「選択と集中」を行い、戦略事業である「爆丸」「ジュエルペット」「ズーズーペット」において事業拡大に取り組み、定番シリーズである「アンパンマン」「ビーナ」「ホームスター」「夢ペット」において安定的な収益確保に努めてまいりました。

これらの結果、当第1四半期連結会計期間における売上高は3,251百万円（前年同期比7.5%増）となりました。利益面につきましては、主力戦略商品に対する広告宣伝費は大幅に増加したものの、製造コスト低減による原価率の改善や人件費の削減、経費の見直しを図ったことにより、営業損失は0百万円（前年同期は営業損失335百万円）、経常損失は8百万円（前年同期は経常損失345百万円）、四半期純損失は21百万円（前年同期は四半期純損失381百万円）となりました。

<当第1四半期連結会計期間における前年同期との対比による連結業績>

(連結売上高、連結営業利益の前期比) (単位:百万円)



<当第1四半期連結会計期間における事業別連結売上高、連結営業利益>

(単位:百万円)

		第1四半期連結会計期間	
		実績	構成比
グローバルキャラクター事業	連結売上高	1,662	51.1%
	連結営業利益	116	7.0%
グローバルブリス쿨事業	連結売上高	503	15.5%
	連結営業利益	43	8.7%
グローバルエデュテイメント & ホビー事業	連結売上高	633	19.5%
	連結営業利益	14	2.3%
グループシナジー事業	連結売上高	451	13.9%
	連結営業利益	△ 175	—
合 計	連結売上高	3,251	100.0%
	連結営業利益	△ 0	—

※売上高の構成比は合計売上高に対する割合、営業利益の構成比は各売上高に対する割合を記載しています。

①グローバルキャラクター事業

男児キャラクター「爆丸」の海外展開につきましては、2007年より北米・アジア・欧州などの世界80カ国以上でアニメの放映と関連製品の発売を行い、現在は「爆丸4」の製作が進行するなどグローバル化とシリーズ化に成功しております。女兒キャラクター「ジュエルペット」につきましては、4月より新シリーズの発売を開始いたしました。また、台湾・スペインなどの海外展開も開始いたしました。これらの結果、当第1四半期連結会計期間における売上高は1,662百万円、営業利益は116百万円となりました。

②グローバルプリスクール事業

アンパンマンシリーズにつきましては、新製品「おしゃべりいっぱい！ことばずかん」が日本おもちゃ大賞エデュケーション・トイ部門で大賞を受賞するなど好評を得ており、当製品を中心に好調に推移いたしました。また、NHK幼児向け教育番組で人気の「みいつけた！」シリーズを新たに発売いたしました。これらの結果、当第1四半期連結会計期間における売上高は503百万円、営業利益は43百万円となりました。

③グローバルエデュテイメント&ホビー事業

「ズーザーペット」につきましては、4月より発売を開始しシリーズのラインナップを拡充するなどして堅調に推移いたしました。定番シリーズである「ビーナ」「ホームスター」「夢ペット」シリーズにつきましても堅調に推移いたしました。これらの結果、当第1四半期連結会計期間における売上高は633百万円、営業損失は14百万円となりました。

④グループシナジー事業

「爆丸」の国内展開につきましては、当初計画以上の受注により生産が間に合わず発売当初は一部店舗において品切れも発生したものの、2次出荷においてはほぼ充足できたため計画通りの推移となりました。また、女兒向け「リルぷりっ」シリーズを新たに発売いたしました。これらの結果、当第1四半期連結会計期間における売上高は451百万円、営業損失は175百万円となりました。

なお、当第1四半期連結会計期間よりセグメント別の内訳を変更しております。前連結会計年度までは、「玩具事業」と「その他事業」に大別し、さらに「玩具事業」を「エデュテイメント関連」「ファミリーエンターテイメント関連」「NEWコンテンツビジネス関連」「ホビー関連その他」の4カテゴリーに分けて明記しておりました。しかしながら、平成22年1月に事業部毎に企画から開発・製造・販売までの上流から下流に至るまでの一貫した機能を持つことで収益責任を明確にするための完全事業部制へ移行したことにより、当第1四半期連結会計期間においては現在の事業部制の実態に即した内訳とするため、「グローバルキャラクター事業」「グローバルプリスクール事業」「グローバルエデュテイメント&ホビー事業」「グループシナジー事業」の4つの報告セグメントにて明記しております。

当社元従業員による不正取引が当社グループに与える影響につきましては、本年4月15日、5月6日及び6月3日に適時開示にて公表いたしました通りであります。改めまして株主・投資家の皆様をはじめ、取引先及び市場関係者の皆様にはご迷惑とご心配をお掛けしておりますことを心よりお詫び申し上げます。

また、現在も未解決の売掛債権を有すると主張する相手方が8者おり、その合計は約380百万円であり、その中で実質的に損害を被っている者の損害額の合計は約150百万円であることは、最終報告時点と同様であります。最終報告時点から現在に至るまでの間に、次のとおりの進捗がございました。

- ・上記8者のうち2者より当社に対して、業務委託料として計169百万円の支払いを求めて平成22年6月11日に東京地方裁判所へ提訴がなされておりますが、当社といたしましては当社顧問弁護士と内容を協議し、裁判を通じて当社の主張を強く訴え、適切に対応してまいる所存です。

- ・上記8者のうち6者との間で、解決に向けて協議中です。

(2)連結財政状態に関する定性的情報

①資産、負債及び純資産の状況

当第1四半期連結会計期間末の総資産は前連結会計年度末に比べ246百万円増加し、6,573百万円となりました。主な要因は、有価証券が700百万円減少しましたが、現金及び預金が301百万円、受取手形及び売掛金が129百万円、たな卸資産が212百万円及び有形固定資産が165百万円増加したこと等によるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べ30百万円減少し、4,163百万円となりました。主な要因は、短期借入金が増加しましたが、支払手形及び買掛金が254百万円、社債が82百万円及び長期借入金が増加したことで減少したことであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ276百万円増加し、2,410百万円となりました。主な要因は、四半期純損失を21百万円計上したことに加え、当社連結子会社である爆丸有限責任事業組合への少数株主からの300百万円の払込み等により少数株主持分が311百万円増加したことによるものであります。

## ②キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末で398百万円減少し、2,658百万円となりました。

### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第1四半期連結会計期間における営業活動の結果、減少した資金は533百万円となりました。これは主に税金等調整前四半期純損失13百万円を計上したことに加え、売上債権が129百万円、たな卸資産が212百万円それぞれ増加したこと等によるものであります。

### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第1四半期連結会計期間における投資活動の結果、減少した資金は361百万円となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出295百万円、ソフトウェア等無形固定資産の取得による支出65百万円等によるものであります。

### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第1四半期連結会計期間における財務活動の結果、増加した資金は504百万円となりました。これは主に、長期借入金の返済による支出が12百万円、社債の償還による支出が82百万円あった反面、短期借入金が300百万円増加し、当社連結子会社である爆丸有限責任事業組合への少数株主からの払込による収入が300百万円あったこと等によるものであります。

## (3)連結業績予想に関する定性的情報

本日の「業績予想の修正」で公表いたしました通り、当第1四半期連結会計期間における業績が当初計画を上回って推移したため、平成22年9月期通期(平成22年4月1日から平成22年9月30日)の業績予想を修正しております。なお、平成22年5月10日に公表いたしました平成23年9月期第2四半期累計期間(平成22年10月1日から平成23年3月31日)の連結及び個別の業績予想につきましては、玩具業界最大の商戦期であります10月から12月の見通しが現時点では不確定な状況にあることを勘案し、当初計画通りに据え置いております。

## 2. その他の情報

### (1)重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

### (2)簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

#### ① 棚卸資産の評価方法

当第1四半期連結会計期間末の棚卸高の算出に関しては、実施棚卸を省略し、前連結会計年度末の実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算出する方法によっております。

#### ② 一般債権の貸倒見積高の算定方法

当第1四半期連結会計期間末の貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末の貸倒実績率等を使用して貸倒見積高を算定しております。

#### ③ 固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

#### ④ 繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められるので、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

① 資産除去債務に関する会計基準の適用

当第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。これに伴う損益に与える影響はありません。

② 表示方法の変更

(四半期連結損益計算書関係)

前第1四半期連結累計期間において、区分掲記していた営業外費用の「為替差損」につきましては、当第1四半期連結累計期間においては「為替差益」となり、営業外収益の総額の100分の20以下のため、営業外収益の「その他」(当第1四半期連結累計期間680千円)に含めて表示しております。

また、前第1四半期連結累計期間において、営業外費用の「その他」に含めて表示していた「社債発行費償却」(前第1四半期連結累計期間2,176千円)につきましては、当第1四半期連結累計期間において、営業外費用の総額の100分の20を超えたため、区分掲記しております。

(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成22年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,663,142	2,361,149
受取手形及び売掛金	1,928,445	1,798,456
たな卸資産	636,808	424,393
繰延税金資産	2,054	1,455
その他	317,764	906,817
貸倒引当金	△1,592	△1,485
流動資産合計	5,546,622	5,490,786
固定資産		
有形固定資産	593,815	428,000
無形固定資産	190,500	91,496
投資その他の資産	208,771	279,833
固定資産合計	993,086	799,329
繰延資産	34,132	37,690
資産合計	6,573,842	6,327,805
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	791,659	1,046,126
短期借入金	800,000	500,000
1年内返済予定の長期借入金	50,000	50,000
1年内償還予定の社債	740,500	740,500
未払法人税等	4,794	13,412
その他	593,670	571,721
流動負債合計	2,980,624	2,921,760
固定負債		
社債	1,163,750	1,246,250
その他	19,292	25,888
固定負債合計	1,183,042	1,272,138
負債合計	4,163,667	4,193,898
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,735,684	1,735,684
資本剰余金	1,755,785	1,755,785
利益剰余金	△1,867,091	△1,845,109
株主資本合計	1,624,377	1,646,360
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△362	△171
繰延ヘッジ損益	△811	—
為替換算調整勘定	△10,784	3,854
評価・換算差額等合計	△11,958	3,683
新株予約権	37,566	34,782
少数株主持分	760,190	449,080
純資産合計	2,410,175	2,133,907
負債純資産合計	6,573,842	6,327,805



(2) 四半期連結損益計算書  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)
売上高	3,025,794	3,251,456
売上原価	2,478,781	2,203,606
売上総利益	547,013	1,047,850
販売費及び一般管理費	882,451	1,048,755
営業損失(△)	△335,437	△905
営業外収益		
受取利息	28	152
投資事業組合収益	2,773	3,216
その他	6,550	3,076
営業外収益合計	9,352	6,446
営業外費用		
支払利息	4,036	6,433
支払保証料	2,482	4,053
社債発行費償却	—	3,557
為替差損	9,565	—
その他	2,971	—
営業外費用合計	19,055	14,044
経常損失(△)	△345,140	△8,503
特別利益		
前期損益修正益	—	9,304
その他	—	1,497
特別利益合計	—	10,802
特別損失		
子会社整理損	10,105	—
不正関連損失	—	15,731
特別損失合計	10,105	15,731
税金等調整前四半期純損失(△)	△355,246	△13,432
法人税、住民税及び事業税	27,650	1,652
法人税等調整額	△1,071	△802
法人税等合計	26,579	850
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	—	△14,282
少数株主利益	—	7,699
四半期純損失(△)	△381,825	△21,982

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純損失 (△)	△355,246	△13,432
減価償却費	68,725	94,045
のれん償却額	8,432	—
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△6,530	21
受取利息及び受取配当金	△46	△192
支払利息	4,036	6,433
為替差損益 (△は益)	△12,409	△7,875
売上債権の増減額 (△は増加)	222,934	△129,903
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△196,617	△212,415
仕入債務の増減額 (△は減少)	△229,477	△254,467
未払費用の増減額 (△は減少)	20,357	37,898
その他	△56,746	△38,377
小計	△532,587	△518,265
利息及び配当金の受取額	46	345
利息の支払額	△549	△7,132
法人税等の支払額	△22,701	△8,893
営業活動によるキャッシュ・フロー	△555,793	△533,946
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△164,791	△295,823
無形固定資産の取得による支出	△3,761	△65,183
その他	△838	△597
投資活動によるキャッシュ・フロー	△169,390	△361,603
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入れによる収入	—	300,000
長期借入れによる収入	100,000	—
長期借入金の返済による支出	—	△12,500
社債の発行による収入	490,210	—
社債の償還による支出	—	△82,500
少数株主からの払込みによる収入	—	300,000
リース債務の返済による支出	△619	△863
配当金の支払額	—	△36
財務活動によるキャッシュ・フロー	589,591	504,100
現金及び現金同等物に係る換算差額	11,806	△6,556
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△123,786	△398,006
現金及び現金同等物の期首残高	2,262,768	3,056,149
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,138,981	2,658,142

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

[セグメント情報]

(追加情報)

当第1四半期連結会計期間より「セグメント情報の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

1. セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は事業部毎に企画から開発・製造・販売までの上流から下流に至るまでの一貫した機能を持つことで収益責任を明確にするための完全事業部制を行っており、当第1四半期連結累計期間は現在の事業部制の実態に即した内訳とするため、「グローバルキャラクター事業」「グローバルプリスクール事業」「グローバルエデュテイメント&ホビー事業」「グループシナジー事業」の4つの報告セグメントにて明記しております。

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第1四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)

	グローバル キャラクター事 業 (千円)	グローバル プリスクール 事業 (千円)	グローバル エデュテイメン ト &ホビー事業 (千円)	グループシナジ ー事業 (千円)	計 (千円)
売上高					
外部顧客に対する売上高	1,662,314	503,836	633,665	451,640	3,251,456
計	1,662,314	503,836	633,665	451,640	3,251,456
セグメント利益又は損失(△) (営業利益又は営業損失(△))	116,135	43,666	14,394	△175,101	△905

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。